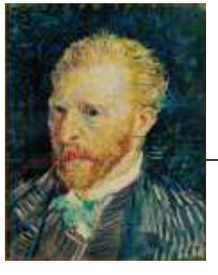
スーパークローン
文化財
ゴッホの《ひまわり》

塗り絵にチャレンジ

フィンセント・ファン・ゴッホ
《ひまわり》（再現）

フィンセント・ファン・ゴッホ
《自画像》（再現）



美術館での約束

展示品が傷つく恐れがあること、他の人の迷惑になることはやめましょう。

マスク着用　距離をとる　会話禁止　触らない　走らない　通話禁止　飲食禁止　持込禁止　ゲーム禁止

筆記具について
展示室内では鉛筆・ペンシルのみ○　シャープペン・ペン×
ジュニアスペース（自習席）ではシャープペン・ペンも○

撮影について
写真○　動画×　機材×

［編集・発行］そごう美術館　2021年7月

東京藝術大学スーパークローン文化財

謎解き「ゴッホと文化財」展

つくる文化∞つなぐ文化

ジュニアガイド

第1章

- ゴッホの描き方の特徴をさがしてみよう！
- ゴッホの37年の人生をみてみよう！
- 印象派・ポスト印象派のクローン文化財作品を比べてみよう！

第2章

- 夜を描いたゴッホの作品にある「光」―どのように描いてる？
- 「ひまわり」「浮世絵の模写」―ゴッホはなぜ描いたの？
- クローン文化財は何のためにつくられたの？

第3章

- 浮世絵に描かれているものを隅から隅まで見てみよう！
- ボストン美術館の浮世絵の保存状態がよかったのはなぜ？
- クローン文化財によって未来はどのように変わるだろう？

会場で見てみよう！考えてみよう！

2021年7月31日(土)～8月31日(火)

そごう美術館

［横浜駅東口 そごう横浜店6階］
郵便番号 220-8510 横浜市西区高島2-18-1
電話 045（465）5515（美術館直通）
http://www.sogo-seibu.jp/common/museum/

SOGO 横浜
www.sogo-gogo.com

左上：フィンセント・ファン・ゴッホ《オーヴェルの教会》（再現）、右上：フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》（1945年焼失）画像提供：調布市武者小路実篤記念館、中央：フィンセント・ファン・ゴッホ《自画像》（再現）、左下：《法隆寺金堂壁画第6号壁》（焼損前再現）、右下：ポール・セザンヌ《台所のテーブル》（再現）／エドゥアール・マネ《笛を吹く少年》（立体再現）

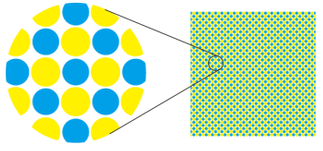
目の不思議

ゴッホの色彩の秘密

視覚混合とは？

となりあわせに置かれた２つ以上の色彩が、遠くから見ると視覚の中で混じり合ってひとつの色に見える現象です。（併置混色とも呼ばれます）
ゴッホはこの現象を利用して絵を描いています。

視覚混合の例



左側の図では、青と黄の●がはっきりと区別され、交互に並んでいる様子が見えます。
これらを小さくした右側の図では、青と黄が混ざり合って緑に見えます。

ゴッホが絵の中で使っているよ

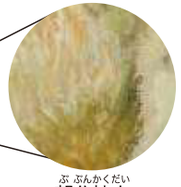
フィンセント・ファン・ゴッホ
《オーヴェルの教会》（再現）

絵画の世界の応用

絵の具は色を混ぜると元の色より濁ってしまいます。（減法混色といいます）

減法混色の例

しかし、視覚混合を応用して、色を混ぜずにとなりあわせに置くことで、パレット上で絵の具同士を混ぜ合わせてつくる色より輝いて見えます。



部分拡大

フィンセント・ファン・ゴッホ
《自画像》（再現）

筆触分割

ゴッホは、パレット上で絵の具を混ぜず、色を画面上に併置することで色の輝きにあふれた絵画を描けることを直感し、その視覚効果を取り入れました。

参考資料　●artscape>現代美術用語辞典1.0>視覚混合（http://artscape.jp/dictionary/modern/1198579_1637.html accessed: 2017.4.18）　●清野恒介（編著）『色彩用語辞典』新紀元社,2009　●『オックスフォード西洋美術辞典』佐々木英也（監）,講談社,1989　●『色彩用語辞典』日本色彩学会（編）,東京大学出版会,2003

よみがえる文化財　失われた文化財の再現

日本に初めて来たゴッホ作品

フィンセント・ファン・ゴッホ
《ひまわり》※

初公開　クローン文化財でよみがえる

※画像提供：調布市武者小路実篤記念館

1945年、空襲で焼失したゴッホの幻の作品

日本にあった“芦屋の《ひまわり》”

日本ではまだ知られていなかったゴッホを早くから高く評価していた武者小路実篤。彼は西洋美術を紹介する美術館をつくるため、関西の実業家山本顧彌太に協力を求め、購入をすすめました。山本の住いが芦屋だったため“芦屋の《ひまわり》”と呼ばれています。しかし、1945年の空襲で焼失してしまいました。

西洋美術を紹介する美術館を作りたい！

《ひまわり》の前の山本顧彌太（左）と武者小路実篤 1938年頃※

法隆寺金堂壁画第６号壁

焼損前再現

1949年、法隆寺金堂の火災により壁画も被害を受けました。この火災がきっかけとなり、「文化財保護法」が作られました。７世紀末に描かれたといわれ、中国の伝統的な「鉄線描」や「凹凸画法」などの表現が見られる貴重な文化財を焼損する前の姿に復元しました。

法隆寺　現在残っている世界最古の木造建築。聖徳太子が建てたといわれています。

写真や資料をもとにしたデータを印刷。実物と同じ絵の具を使って、最後は人の手で色を塗って仕上げます。

スーパークローン文化財とは　現代の最先端デジタル技術と東京藝術大学の伝統的な模写の技術をあわせ、人のわざや感性を加えて、実物と同じ素材と質感をめざして再現されたものです。